

代表者名	千葉 俊	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日

【沿革及び県の出資理由】

魚などとの触れ合いを通じた学習の機会を提供し、県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、秋田県の観光振興を図ることを目的に県等の出資により設立された。

【出資者】(21年度当初)

(千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	51,000	51.0
男鹿市	1	31,000	31.0
民間	5	18,000	18.0
計	7	100,000	100.0

【事業】

主たる業務

秋田県立男鹿水族館の管理運営

事業実績

(千人)

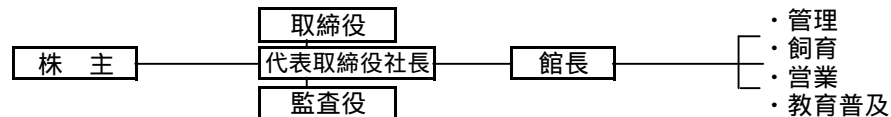
事業名等	18年度	19年度	20年度
入館者数(有料)	278	251	224

20年度事業概要及び21年度事業計画・目標

H20年度は県委託事業「GAO魅力アップ検討委員会」を開催し提案書を県に提出した。これを受けてH21展示コーナーを改修しH21博物館も設け、より観察しやすく楽しく詳しくH21を学ぶことができるようになった。アザラシ等海獣類観覧通路に音響施設を設置し、餌時間に飼育係の解説が聞けるようになり、長時間を館内で楽しむことができるようになり来館者に好評である。H21年度は県委託事業「魅力アップ基本計画策定業務」を実施し、魅力アップ・集客増につながる施設改修やソフト面について計画書を作成し実現を目指す。

【組織】

運営機構



役員数 (H21.7.1現在)

(人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	4	1
内、県退職者		
内、県職員	2	
計	5	1
内、県関係者	2	0

職員数 (H21.4.1現在)

(人)

	人数	正職員平均年齢	正職員平均勤続年数
正職員	20	29.9歳	3.8年
内、県退職者	1		
出向職員	1		
内、県職員			
臨時・嘱託	1		
内、県退職者			
計	22	正職員平均年収	3076千円
内、県関係者	1		

役員報酬支給対象者数	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	59.5歳
平均役員報酬額	4680千円/年

【財務】

損益状況 (20年度)

(千円・税抜)

	金額
経常収入 A	422,720
受託事業収入	93,994
水族館収入	173,467
自主事業収入	149,837
運用益収入	
その他	5,422
経常支出 B	422,381
人件費	116,686
その他	305,695
経常損益 C = A - B	339
経常外支出	47
諸税	210
当期損益	82

財務状況 (20年度末)

(千円、%)

	金額	構成比
流動資産	187,980	88.8
固定資産等	23,725	11.2
資産計	211,705	100.0
流動負債	25,688	12.1
短期借入金		0.0
固定負債	2,866	1.4
長期借入金		0.0
引当金等		0.0
負債計	28,554	13.5
資本金	100,000	47.2
剰余金	83,151	39.3
資本計	183,151	86.5
負債・資本計	211,705	100.0

県の損失補償額	県の債務保証額
---------	---------

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	中退共加入		60.0%

【県の財政支出】

(千円・税抜)

	18年度	19年度	20年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費	70,966	79,849	93,994	水族館を管理するに当たり人件費、宣伝広告費、展示生物費等を支出
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	18年度	19年度	20年度	18-19増減	19-20増減
健全性	自己資本比率	%	80.60	84.73	86.51	4.13	1.78
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	438.18	576.67	731.79	138.49	155.12
収益性	剰余金(欠損金)	千円	77,051	83,069	83,151	6,018	82
	経常利益率	%	1.84	2.21	0.08	0.37	2.13
	総資本利益率	%	3.97	4.54	0.16	0.57	4.38
発展性	経常収入額	千円	473,375	444,023	422,720	29,352	21,303
効率性	総資本回転率		2.15	2.06	2.00	0.10	0.06
	職員1人当たり経常収入	千円	15,270	12,334	14,091	2,936	1,757
	人件費比率	%	26.86	27.88	27.60	1.02	0.28

2 経営目標の達成状況

経営目標			18年度	19年度	20年度	21年度
経営改善指標	当期利益(千円)	目標	21,580	7,051	2,566	2,599
		実績	4,879	6,018	82	
事業成果指標	売上高人件費率(%)	目標	29.0	29.0	27.0	28.4
		実績	27.0	28.0	28.0	
事業成果指標	入館者数(千人)	目標	314	258	253	243
		実績	278	251	224	
事業成果指標	売上高(千円)	目標	472,791	379,717	365,119	356,499
		実績	399,184	361,568	323,304	
顧客満足度指標	顧客満足度指数	目標	70	84	85	88
		実績	81	81	86	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

H20年度は入館者数が対計画で11%で収入もその分減少した。支出を抑えることによりなんとか損益は若干のプラスを確保できたものの、これ以上入館者数が減れば採算確保は困難である。ガソリン高騰や世界同時不況等により入館は減少したが、展示物を増やしイベント充実化などで顧客満足度や滞在時間は着実に増加傾向にある。報道露出も多くなり全国放送による反響もあった。エージェントのツアーは新設定があり、セールス効果が出ている。しかし、入館者の大幅増につながるようなニュース性の強いものが不足し目標を達成できなかった。

<顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組>

H21年度は県からの委託事業で魅力アップ基本計画を策定する。H20年度魅力アップ検討委員会の提案書を元に施設改修やゾーンの新しい施策を考え実施を目指す。この基本計画はニュース性を重視し集客につなげる。顧客からの要望が強い、ホッキョクグマの現アザラシ水槽展示を実施し集客につなげる。水族館前の磯を活用した親子参加型イベントを開催する。男鹿半島全体の利益を考慮し、GWやお盆の渋滞解消策の徹底や連携事業に協力し、半島全体に観光客を多く呼び込み、水族館の入館者増につなげる。

4 総合評価(計算書類等の資料及びヒアリングによる評価)

概ね安定した経営内容	一層の努力を要する経営内容
・ガソリンの高騰、地震、金融大不況等の厳しい経営環境の中で、僅かながら黒字決算となったが、入館者数(有料)の減少により入館料が22百万円減少、売店・レストラン売上も15百万円減少したため、十分な営業成果とはいえない。	
・受託料94百万円には特例によるものが含まれ、計画89百万円を上回っている。	
・今後は、県の魅力アップ計画の具体化が集客力の増強として期待されるが、一方で、新年度からは本来の指定管理者として自立した経営手腕が求められる。	